

[022]九州大学産学連携センター年報 : 22

<https://doi.org/10.15017/1670639>

出版情報 : 九州大学産学連携センター年報. 22, pp.1-, 2016-09-01. 九州大学産学連携センター
バージョン :
権利関係 :

7.1

共同研究部門の目標

古川 勝彦 副センター長・教授

7.1 共同研究部門の目標

産学連携センター共同研究部門では、民間機関等と本学が共同で特定の研究分野について一定期間継続的に研究を行うことにより、社会の発展に資する研究の高度化と多様化を図ることを目的としています。

7.2.1

ANtech 車載先端材料共同 研究部門

溝口 誠 教授

7. 2. 1 ANTech車載先端材料共同研究部門 (溝口 誠 教授)

① 目的

自動車業界を取り巻く環境は日々変化しており、環境対応に重点をおいたHEVやEVに関する主要技術は今や全世界の自動車メーカーが保有するところとなり、競争も激化している。その中、安全性や信頼性は基より、新規材料や新規技術の開発における、コストパフォーマンスや実用化スピードも重要となっている。一方で運転自動化や高度情報化等の利便性や安全性向上に伴い、自動車部品に対する要求が多様化してきていることから、産・学・官個々それぞれにおける研究推進では、開発の技術力やスピードに限界が見えつつある。したがって、国内における車載材料開発については、研究成果の実用化検討を主とする産学連携形式のみ留まらず、共同研究の高度化と多様化が必須となってきた。

よって本部門は車載先端材料共同研究の拠点として、従来の材料の認識や分野にとらわれない新規かつ信頼性の高い材料の研究開発を行い、特に回路の複雑化に伴うダウンサイジングや軽量化等の課題を持つワイヤーハーネスにおいては、世界No.1の材料を上市する事を第一の目的としている。また、実際の車載を考慮した実用評価・量産化、及びグローバル化を考慮した知的財産活動にも関わり、更には、次世代の自動車に対する社会的状況を踏まえたシーズの発信を積極的に行っていく事を目的としている。

②プロジェクト研究

＜車載先端材料に関する共同研究の推進＞

1) 新規材料研究開発

- ・材料表面改質剤の開発
- ・新規接着材料の開発

2) 車載・実用化への取り組み

- ・車載条件を考慮した実用的評価法の確立
- ・実車条件特有の材料変化に関する理論構築
- ・グローバル供給を考慮した量産化技術確立

3) 知的財産活動

- ・国内外特許出願・権利化、周辺特許調査
- ・特許庁特許出願技術動向調査（ワイヤーハーネス）委員会委員長

③資金導入実績

共同研究費（株オートネットワーク技術研究所）

④研究業績

企業化に向け特許取得に重点

- ・H27年度出願特許 17件
（累計特許出願数：98件、権利化数：27件）

以上